



陽多恵福由克秀博

優

歳時記に母の筆跡今朝の冬

中野亘子

由多優秀

冬立ちぬ終活の手の進まざる

中野亘子

敏徳陽

枯園のあけぼの杉は天を刺す

中野亘子

由徳福

天平展出ずれば令和冬麗ら

中野亘子

巨茂福志博

諸々のこと祈りしも神の留守

中野亘子

茂崎克秀

見舞いなく八十路の床に冬立てり

西村敏治

指折りて病室の床春を待つ

西村敏治

なお悔し秋季決勝「北野」戦

西村敏治

秋の夜を友と語りし師の矛盾

西村敏治

病得て逝きし友思ふ冬立ちぬ

西村敏治

ライン来て離れし里の冬来る

加龍恵子

冬立ちて母校訪ねば子等眩し

加龍恵子

じやれ合ひて子犬の駆ける今朝の冬

加龍恵子

花濡れて色なほ深し今朝の冬

加龍恵子

道の辺の草種埋め冬に入る

加龍恵子

王林とふ林檎の色を淋しめり

加龍恵子

コロナ禍のマスク買い足し冬に入る

佐藤多恵子

藤十郎逝けり近松忌の近し

佐藤多恵子

遊歩道石路ひときはの黄を揚ぐ

佐藤多恵子

焼栗や憶良の歌をつぶやけり

佐藤多恵子

球磨川の文字美しく冬立つ日

佐藤多恵子

任命除外怒りと危惧の冬立ちぬ

山家由紀

富士山頂雪少なくて里温し

山家由紀

冬空に影絵の富士や夕餉待つ

山家由紀

はやぶさ2生む町工場冬日照る

山家由紀

枯菊をたばねかすかななのごりの香

富岡訓子

立冬や朝の風色変り来る

富岡訓子

冬の山写して大きく光明池

富岡訓子

訃報あり一氣に還るあの冬日

富岡訓子

ここでないどこかへゆきたや秋納骨

富岡訓子

どうだんの燃ゆるが如し冬たちぬ

齋藤優子

匂いきて開花を知りぬ金木犀

齋藤優子

秋天を突如震わすへり編隊

齋藤優子

今日もまた同じ処に冬バツタ

齋藤優子

岩蔭につわぶきの黄色自己主張

齋藤優子

立冬の気配凜たり心締む

齋藤優子

山茶花の庭彩りて散り敷きて

齋藤優子

道すがらふと柀の香のゆかし

齋藤優子

コロナ余波オンライン始む冬講座

齋藤優子

忘却と如何に併走老の冬

齋藤優子

巨志

網 佑子

【選句についてお願い】

- 一、お一人五句選句して頂き、その「句番号」をお寄せください。
- 二、選句の内「特選句」一句の番号の後ろに「特選」と記入して下さい。
- 三、「特選句」について、五〇文字以内で句評をお願いできればなお結構です。

投句、選句者氏名 ( ) 内は選句者略号(五十音順)

網 佑子(佑)、井狩 修(修)、岩崎悦子(崎) 岩壺克哉(克)、加龍恵子(恵) 楠野圭子(圭)、  
小松康子(康)、斎藤優子(優)、佐藤多恵子(多)、佐藤茂弘(茂)、戸堂博之(博)、富岡訓子(訓)、  
中野亘子(亘)、中野陽典(陽)、西村敏治(敏)、本多通博(通)、前田秀一(秀)、三木徳彦(徳)、  
都 福仁(福)、宮本智乃(智)、元永悦子(永)、山家由紀(由)、吉澤志保子(志)